

神棚のまつり方

(位置)

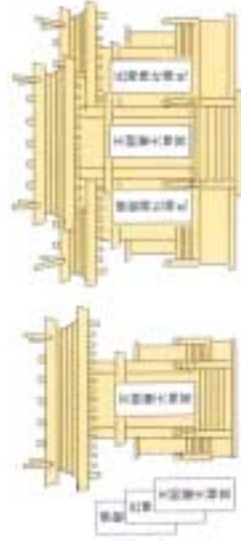
一家の集う居間に、南または東向きに設けます。

どうしても棚の取付が不可能な場合は箆笥の上等を清浄にし、その上に設けるようにしてください。

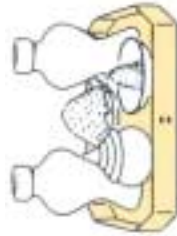
注連縄は太い方を、向かって右にしてかけ、紙垂をつけます。

(御紙札のまつり方)

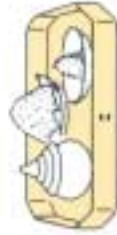
三社造りの場合は、中央に神



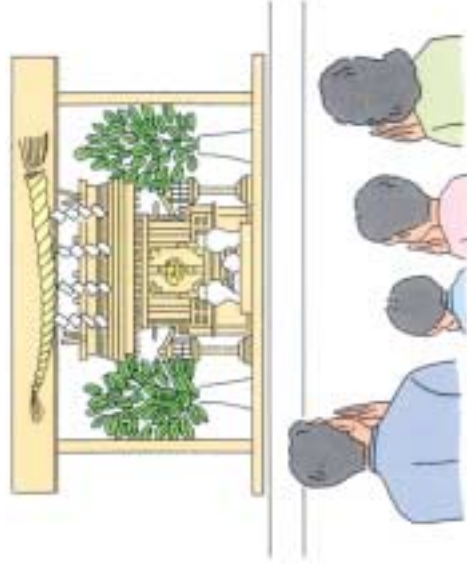
三社造りの場合



一社造りの場合



お米・塩・水を
一台に供える例



宮大麻、向かって右側に氏神様、左側に他の神社の御神札をおまつりします。

一社造りの場合は、奥より他の神社、氏神様、一番表に神宮大麻をおまつりします。

また、御神札の前には幣束をお供えます。

(神饌)

神饌は毎朝、米・塩・水を三方または折敷(とじめを手前に向ける)ののせてお供えます。

毎月一日・十五日や、氏神様の祭日、その他一家の記念すべき日には、御神酒・野菜・果物

等もお供えしましょう。

また、季節の初物も、お供えした後、おさがりとして、家族一同でいただくようにしましょう。

(まつりの仕方)

まず神饌をお供えて、二拝二拍手一拝の作法にてお参ります。

尚、幣束は稲荷さん・井戸・勝手・トイレ等にもお供えします。

その他不明なところは氏神社の神職に御相談ください。

喪中の時の正しい 神棚のまつり方

新年又は旧年中に家族親族の御身内でご不幸があった場合は、必ず神棚前に白紙(半紙)を貼って、五十日あるいは四十九日迄の間は神棚のおまつりを慎しんで「喪」に服しましょう。

そして、四十九日や五十日が過ぎて「喪」が明けたならば、ただちに白紙をはがして、御神札・御幣束をおまつりしてまた通常通り神棚のおまつりを齎行するように致しましょう。

五十日祭や四十九日供養が過ぎてもおまつりしないまま、一年中神棚を放って置くことの絶対に無い様にくれぐれも注意をして、一日もはやく日常の生活に復帰出来る様に心掛けましょう。